

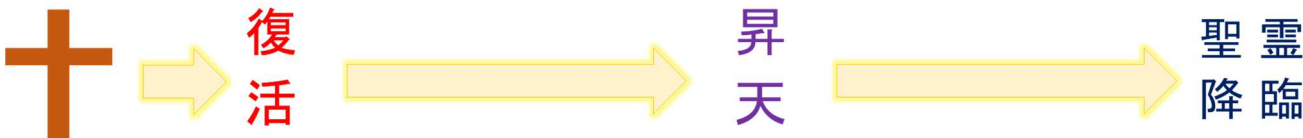
184 ゲツセマネ途上での説教(5) 悲しみが喜びに変わる、イエスは既に勝っている

ヨハネによる福音書 16 : 16~33

.....律法の時代から恵みの時代に移行しつつある.....

16「しばらくすると、①あなたがたはもうわたしを見なくなる（→十字架の死）が、②またしばらくすると、わたしを見るようになる（→3日目にある復活）。」

→しばらくすると：当時、弟子たちには何のことをイエスが言っているのか理解できなかった。



1	2	3日目	1	2	...	39	40日目	1	2	...	9	10日目
金	土	日	月	火	...	木	金	土	日	...	日	月
3			40					10				
金	土	日	月	火	...	木	金	土	日	...	日	月

17そこで、弟子たちのある者は互いに言った。

『しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる』とか、『父のもとに行く』とか言っておられるのは、何のことだろう。』

【参考】新約聖書にある「父のもとに(父のものへ)」等

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 7 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S ヨハネによる福音書	13:1 さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。	
S ヨハネによる福音書	14:12 はっきり言うておく。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。わたしが父のもとへ行くからである。	
S ヨハネによる福音書	14:28 『わたしは去って行くが、また、あなたがたのところへ戻って来る』と言ったのをあなたがたは聞いた。わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くのを喜んでくれるはずだ。父はわたしよりも偉大な方だからである。	
S ヨハネによる福音書	16:5 今わたしは、わたしをお遣わしになった方のもとに行こうとしているが、あなたがたはだれも、『どこへ行くのか』と尋ねない。	
S ヨハネによる福音書	16:10 義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなること、	
S ヨハネによる福音書	16:28 わたしは父のもとから出て、世に来たが、今、世を去って、父のもとに行く。」	
S ヨハネによる福音書	20:17 イエスは言われた。「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから。わたしの兄弟たちのところへ行って、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る』と。」	

18 また、言った。

『しばらくすると』と言っておられるのは、何のことだろう。何を話しておられるのか分からない。」

→弟子たちは、イエスが何のことを話されているのかを直接聞くのではなく、自分たちで話し合っている。

19 イエスは、彼らが尋ねたがっているのを知って言われた。

『しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる』と、わたしが言ったことについて、論じ合っているのか。

20 はっきり言うておく（口語訳：よくよくあなたがたに言うておく、聖書協会共同訳：よくよく言うておく→厳粛な予告をするときのイエスの言葉）。

→聖書に「はっきり言うておく」は74聖句（74回）に登場する（別紙参照：資料1）。

あなたがたは泣いて悲嘆に暮れるが、世は喜ぶ。あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる。

21 女は子供を産むとき、苦しむものだ。自分の時が来たからである。しかし、子供が生まれると、一人の人間が世に生まれ出た喜びのために、もはやその苦痛を思い出さない。

→イエスは自分が十字架上で死んだ時の、弟子たちの悲しみと不安のことを語った（ヨハネ19:17～30）。この悲しみは辛く、女性の産みの苦しみに匹敵する。しかし、悲しいことに、イエスを信じない者（この世）は、イエスを殺して喜ぶ。

22 ところで、今はあなたがたも、悲しんでいる。しかし、わたしは再びあなたがたと会い、あなたがたは心から喜ぶことになる。その喜びをあなたがたから奪い去る者はいない。

23 その日（→昇天の後）には、（わたしはこの世にいなくなるので）あなたがたはもはや、わたしに何も尋ね（ることはでき）ない。

はっきり言うておく。あなたがたがわたしの名によって（→わたしの弟子として）何かを父に願うならば、父はお与えになる。

→今まではなかったが、イエスの昇天後は、弟子たちがイエスの名による代理人（大使）として、働きをする必要がある。それゆえ、①イエスの代理人として、②イエスの御心に沿った、そして③聖霊に導かれた、弟子たちの「イエスの名による祈り」は父なる神の御心と調和した祈りとなり、答えられた祈りは、弟子たちに大きな喜びをもたらすことになる。

24 今までは、あなたがたはわたしの名によつては何も願わなかった。願いなさい。そうすれば与えられ、あなたがたは喜びで満たされる。」

25 「わたしはこれらのことを、（ベルゼブル論争以降は）たとえを用いて話してきた。

（しかし）もはやたとえによらず、はっきり父（なる神）について知らせる（→啓示する）時が来る。

→ベルゼブル論争：マタイ12:22～32、マルコ3:20～30、ルカ11:14～23、12:10

26 その日には、あなたがたはわたしの名によって（→わたしを信じる者として）願うことになる。わたしがあなたがたのために父に願ってあげる、とは言わない。

→この地上において、弟子たちはイエスの名によって、直接、父なる神に祈りを献げることができるようになる。

27 父御自身が、あなたがたを愛しておられるのである。あなたがたが、わたしを愛し、わたしが神のもとから出て来たことを信じたからである。

28 わたしは父のもとから出て、世に来た（→受肉）が、今、世を去って、父のもとに行く（→復活、昇天、栄化）。→イエスの神性宣言（父なる神＝イエス・キリスト）

→預言者たちは神から召命（派遣）されたが、イエスは、「父のもとから出て、世に来た」、「神のもとから来られた」（29節）。

29 弟子たちは言った。

「今は、はっきりとお話しになり、少しもたとえを用いられません。30 あなたが何でもご存じで、だれもお尋ねする必要のないことが、今、分かりました。これによって、あなたが神のもとから来られたと、わたしたちは信じます。」→弟子たちの信仰告白（どの程度かは・・・）

31 イエスはお答えになった。

「(あなたがたは) 今ようやく、信じるようになったのか。

32 だが、あなたがたが散らされて自分の家に帰ってしまい、わたしをひとりきりにする時が来る。いや、既に来ている。しかし、わたしはひとりではない。父が、共にいてくださるからだ。

→ヨハネによる福音書 8 : 29

わたしをお遣わしになった方は、わたしと共にいてくださる。わたしをひとりにはしておかれぬ。わたしは、いつもこの方の御心に適うことを行うからである。

→弟子たちは、イエスが真に誰であるかを知っていると云ったのではあるが、イエスの苦難と死は、彼らの勇気と信仰を試すものとなる。弟子たちは最初、苦難にあるイエスから逃げて行く（ヨハネ 18 : 15～18、25～27、マルコ 14 : 50～51）。イエスは、この弟子たちの信仰の不完全さを既に御存じであった。

→ゼカリヤ書 13 : 7

剣よ、起きよ、わたしの羊飼いに立ち向かえ／わたしの同僚であった男に立ち向かえと／万軍の主は言われる。羊飼いを撃て、羊の群れは散らされるがよい。わたしは、また手を返して小さいものを撃つ。

33 (わたしが) これらのこと (→14 章～前節) を話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。

わたしは既に (この) 世 (の支配者) に勝っている。」

→ヨハネの福音書では、「世」はこの世に暮らす人々と彼らを支配しようとする悪の勢力を言う。悪魔が、神と神の民に敵対する勢力の指導者である。神がイエスを遣わした理由の一つは、悪魔とその働きを滅ぼすことであった（I ヨハネ 3 : 7～8）。

→わたしは既に世に勝っている。=NIV/NKJV : I have overcome the world.